

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	17	学校名	羽島高等学校
------	----	-----	--------

学校教育目標 (教育方針)	地域密着型の高等学校として、家庭や地域社会と連携し、社会的な基礎力・創造力を身に付けることにより、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、地域の未来に貢献できる人材を育成する	
3つの方針 (スカラーポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な知識・教養を身に付け、現代社会における自分の意見や考えをしっかりとつことのできる生徒</li> <li>・TPOに応じたマナーを身に付け、他を思いやり、爽やかな挨拶を交わせるなど、望ましい人間関係が築ける生徒</li> <li>・地域の一員としての責任を自覚し、羽島市を中心とする地域社会の未来の創造に積極的に参画できる生徒</li> </ul>
	生徒をどう育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善に取り組み、生徒の興味・関心を喚起する生徒参加型の授業の実践</li> <li>・地域社会における信頼と期待に応えるために、身だしなみに対する意識や相互協調性を高める指導の継続</li> <li>・探究的な学びや各種検定への挑戦・資格取得等を通して、学習に対する意欲を喚起させるとともに、進路（進学・就職）に対する意識を高め、進路実現を図る</li> </ul>
	どんな生徒を待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な学力を身に付け、本校の学習によってより専門的知識・技術を身に付けることにより、未来に向けて社会の発展に貢献したい生徒</li> <li>・生徒会・Sクラブ・その他部活動を中心とした奉仕活動や地域活動への積極的な参加により、豊かな人間性と個性の伸長を図ることができる生徒</li> <li>・高校生活を通して、自分の将来について真剣に考えることができ、挨拶や他者への配慮など社会的なマナーを身に付け、羽島市を中心とする地域社会で活躍したい生徒</li> </ul>
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校段階までに基礎学力の定着が十分でない生徒が多いため、学び直しも含めた基本的な学習習慣を定着させること</li> <li>・多様な生い立ちや家庭状況を背景に抱える生徒が多く、その中で日本の現代社会における基本的な生活ルールやマナーを習得させること</li> <li>・自己肯定感や自己有用感が低い生徒が多いため、個々の価値を見出させ社会で活躍できる自信を持たせること</li> <li>・羽島市など地域社会や地元企業からの期待が大きい中で、地元中学校や中学生に本校の良さを十分に伝えていくこと</li> </ul>	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	基礎学力の定着と探究的な学びの推進により、生徒の特性や多様な進路希望実現に相応しい学力を育成します
	生徒指導	地域社会の一員として、自信と自覚と自らの行動に責任がもてるよう社会における規範意識を育てます
	特別活動	課題探究に取り組み、地域活動やボランティアに積極的に参加させることで、地域の課題解決を図れる豊かな人間性と個性の伸長を図ります
	その他	生徒と教職員の相互が「心理的安全性」を感じられるような学校を目指し、勤務時間管理の徹底と勤務時間を意識した働き方を推進します

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画 での位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標
学習指導	生徒の特性や多様な進路希望に応じた学びを推進し、ユニバーサルデザインの視点で授業改善を進めます	8	施策Ⅱ-8
	タブレットやICTの活用等を通して個別最適な「学び直し」の機会を設けます	9	施策Ⅱ-9
	各種検定への挑戦・資格取得を通して、専門性の高い知識・技能を身に付けさせます	11	施策Ⅱ-11
	学習に対する意欲を喚起し、進路に対する意識を高めさせることで進路実現が叶うよう支援します	13	施策Ⅱ-13
生徒指導	授業規律の遵守など基本的学習習慣を身に付けるためのルール指導を継続します	23	施策Ⅳ-23
	地域社会における信頼と期待に応えるために、身だしなみに対する意識を高める指導を継続します	1	施策Ⅰ-1
	社会性指導の一環として、遅刻指導を段階化し、遅刻数減少を目指します	7	施策Ⅰ-7
	「迷惑・いじめ調査」や教育相談旬間等の実施を通して、生命の尊重やいじめ、迷惑行為の防止指導を徹底します	3	施策Ⅰ-3
特別活動	部活動加入を推奨するとともに積極的な参加を促し、人間性を養う場としての部活動の充実と活性化を図ります	25	施策Ⅳ-25
	生徒会・Sクラブ・部活動等を中心に、奉仕活動の充実と地域活動への積極的な貢献を推進します	5	施策Ⅰ-5
	HR活動・学校行事等を通して生徒自身が個性を伸ばしつつ、良好な人間関係を構築できるよう支援します	2	施策Ⅰ-2
	探究的の学びの場を地域に広げ、地域課題の解決に貢献できる人材づくりを目指します	4	施策Ⅰ-4
その他	校務のDX等を通して、教職員の業務内容の見直し・改善を図ります	27	施策Ⅳ-27
	勤務時間管理の徹底と勤務時間を意識した「心理的安全性」を感じられる働き方改革を推進します	28	施策Ⅳ-28
	HPの充実やメール一斉配信の活用を努め、多様な背景を持つご家庭等とも有益な情報共有に努めます	22	施策Ⅳ-22
	本校の地域連携の取組を地域社会に理解いただくため、地域社会やメディア等への情報提供を積極的に行います	20	施策Ⅳ-20

#### 来年度に向けての改善方策等

- ・「単位制」ではあるが、教員数にも制限があり、時間割編成にも限界があるため、学年団と連携し、生徒が自分の将来を見据えて、総合・特進、就職・進学、文系・理系などを考えたうえで、科目選択を進める。
- ・タブレットの使用については、授業で使うことが増えてはきたが、さらに使用率を上げていく必要がある。目的外使用や、休み時間の使用について課題も挙げられてはいるが、ICT推進係の見解としては、使用率が上がることは良いと評価したい。しかし、使用後のタブレットの管理については見直しが急務である。
- ・教務として、補充と学習支援について生徒に事前説明会を行い、補充や学習支援の重要性について理解させる必要がある。進路指導としても進路実現に向け、週末課題や、模試、補習などの重要性を理解させたい。
- ・身だしなみ指導、遅刻指導など、全職員が共通認識のもと、粘り強く声掛けを行って行く。指導する際には、組織対応を心がけ、一人で抱え込むことの無いようにする。生徒の些細な変化も見逃すことなく、声掛けと情報共有を行い、安心安全な学習環境の確保を目指す。
- ・保護者への情報共有については、より早く、多くの情報を提供するため、HPの更新、すぐるによるメール配信を行い、連携を図っていく。
- ・「早く帰る日」「ノー残業デー」の周知と管理職による声掛けの継続を行い、働きやすい職場環境の維持継続を心がける。

年度末評価(自己評価)			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部、学年会、教科会など、他分掌と連携し、授業規律の徹底を図る。出欠状況や授業態度がよくない生徒に対しては、保護者同伴の下で特別懇談を行い、早期対策に務めている。</li> <li>・進路指導部と連携し、卒業後の進路を見据えた学習の動機づけを促すとともに、積極的な資格取得を促す。</li> <li>・全教科で公開授業を実施し、ICT機器を活用した授業改善に努めるとともに、探究活動の在り方について研究する。</li> <li>・週末課題、補習、模試につながりを持たせることで、学力の向上を図り、明確な進路目標が設定できるように工夫している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲学校評価アンケートの学習指導に関する質問項目「先生の授業は丁寧でわかりやすい」の肯定的評価は80%だった。だが、それ以外の項目（ICT機器の活用、外部との連携等）については、80%未満だった。特にICT機器の活用については肯定的評価が57%となっており、本校の課題となっている。</li> <li>○生活実態調査において、教師の授業改善に関する項目では、肯定的評価が80%以上となった。探究活動を意識した授業も少しずつ行われるようになってきており、生徒の学びに向かう質も向上している。</li> <li>○成績不良者に対する補充・学習支援等、丁寧に生徒に向き合うことにより、単位未修得者の数が減少している。・学力の向上を実感し、自主学習する生徒が増えている。自分の進路希望に沿った進路指導を行ってもらえているに肯定的評価が76%となっている。</li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度不良等を記録し、指導対象回数に達した生徒は学年主任による指導を行う。</li> <li>・生徒会による遅刻ゼロデーの啓発。職員による呼びかけや支援。</li> <li>・学年別身だしなみ検査の実施、全校一斉の再検査指導。</li> <li>・懇談やいじめ調査等が出てきた情報を基に担任や学年会と連携、情報共有をするとともに何事も早期発見、早期対応。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評価アンケートで基本的な生活習慣に関する指導が行われているという質問に対し生徒、保護者ともに80%超で肯定的回答を得ている。</li> <li>○遅刻ゼロデーを継続したことで、遅刻者の減少につながっている。また、生活改善シートや保護者連絡を密にこなうことで、指導効果が現れている。</li> <li>○身だしなみ検査を毎月実施することで生徒にも定着し、違反者の減少につながっている。</li> <li>○情報共有が綿密に行われていることで、見落としが減り丁寧な対応ができています。</li> <li>▲交通ルールやマナーなど学校外での社会規範が守られない事案がやや見られ、厳しいご意見をいただいた。啓発を行い、モラルの向上を図っていきたい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生を部活動全員加入させることにより、部活動の活発化と2・3年生での部活への定着を図る。</li> <li>・地域からのボランティアの依頼が数多くあり、積極的に参加している。</li> <li>・生徒会主催の行事に対して、欠席も少なく生徒も大変前向きに取り組んでいる。</li> <li>・イタセンバラの保護活動を地元の小学校で開催。また、高校生SDGs水環境サミットを本校主催で開催し、9校の生徒が集まった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動への加入率は60%以上になったが、2・3年生の部活動への参加状況に比べ、1年生の参加状況はやや低い。</li> <li>・生徒会やSクラブ・吹奏楽部などの部活動を中心に地域活動に参加することができた。また、書道部は全国高文祭にも参加し活動することができた。</li> <li>・学校行事やHR活動の中で、思いやりの心を持って、他者に接することができる生徒育成が必要である。</li> <li>・サミット参加の9校で共同宣言できた。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、課題テストなどに採点システムを導入し、業務の軽減を図る。</li> <li>・「早く帰る日」「ノー残業デー」の周知と管理職による声掛けの継続と勤次郎への正確な打刻の呼びかけ。</li> <li>・管理職による職員への日常的な声掛けの実施と職員の観察と把握に心がけ、管理職での情報共有を行う。必要に応じて面談を実施する。</li> <li>・HPのリニューアル、学校行事や部活動の大会結果などHPへの情報公開を増やすことができた。</li> <li>・すぐるによるメール配信で、生徒と保護者に、より早く情報を共有し連携を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外在校時間、月45時間未満を目指すも突発的なことが多く難しい現状であった。管理職から勤次郎への正確な打刻を引き続き呼びかける。</li> <li>・職員室での挨拶や職員の笑顔が多くみられ、管理職と職員のコミュニケーションがとれており、良好な職場環境である。この環境を維持したい。</li> <li>・HPの更新と積極的な情報公開により、各方面からの意見を聞くことができた。</li> <li>・家庭との連携では、概ね80%の肯定的評価をいただいたが、まだ70%の項目もあり、すぐるでの配信などより早く多くの情報が共有できるように継続していく。</li> </ul>	

#### 学校関係者評価

実施日：令和7年1月24日

- ・小中学校の挨拶運動をしていると羽島高校の生徒が挨拶をし「お疲れ様です。」と声をかけてくれ、とても気持ちがよい。午後の授業参観であったが、英語の先生が最高の笑顔で授業をしていたのがとても印象的で、羽島高校の生徒が気持ちの良い挨拶をしてくれる要因が分かった。
- ・保護者から「制服が可愛いから羽島高校へ行きたい。」という中学生の意見もあるようで、身だしなみを整え着こなして欲しいという意見があった。
- ・来校するたびに良くなっている。先生方の意欲や気合が見える。生徒の可能性を信じて諦めず指導することの大切さを感じる。地域密着型の高校として生徒の活動の場、活躍できる場を設定し、「やれるんだ」と感じさせるところへコントロールしていく先生方のスタンスを強く感じ学びたいと思った。
- ・「遅刻ゼロデー」を目指して活動しているが、やむを得ず遅刻して登校する生徒の個別の事情までも把握して指導していただける先生方の取組みが羽島高校を支えていることが分かった。
- ・先生方の絶え間ない努力がよくわかった。しかし、働き方改革が叫ばれる現在、先生方には、健康に気を付けていただきたい。健康第一でお願いしたい。
- ・本校の運営に対して肯定的な意見を多くいただき「スクールミッション」については承認された。